

## 子どもの声域とTVアニメ主題歌

細田 淳子

(平成6年9月30日受理)

### Children's Vocal Range and TV Animation Songs

Junko Hosoda

(Received September 30, 1994)

#### 1. はじめに

保育におけるさまざまな活動の中で、歌う活動は最も根源的なものと言えよう。人類は大昔、祈りの時、祭りの時、あるいは仲間内での合図に声を使い、歌をうたってきたと思われるからである。声は、非常に素朴で心の動きと密接に結びついたものである。一切の道具を使わずに身体だけで誰にでも表現できる歌は、幼児の保育を考える上で不可欠な活動である。

ところが実際の保育の中で行なわれている歌うという活動では本来の意味が見失われ、合図のための道具として安易に扱われている場合もあるのではないだろうか。例えば、規則正しい生活をおくるために「あさのうた」を毎朝うたい、「おべんとうのうた」をうたって静かにさせてから食べ始める。行事があるのでそのための歌を期日までに覚えさせないといけないから歌わせる。このような歌う活動が多く見受けられるのである。子どもたちが歌いたくて歌うような環境をつくることに苦心するよりも、早く正確に覚えさせることに努力しているようである。

子どもの側をみると、怒鳴って歌ったり、ふざけて歌ったり、ほとんど口をあけないでいたり、といったあまり望ましくない現象が見受けられることもある。

保育における歌う活動は、どのようにあるべきなのだろうか。筆者は、子どもの歌唱におけるさまざまな問題点を取り上げ研究を続けてきた。特に「怒鳴って歌う」現象についてその理由を探り、自然に声ができるようになるための指導の在り方を考え続けている。

教師の指示により集団で歌う時にはいつも怒鳴って歌  
保育科 音楽表現研究室

うある子どもが、一人で自発的に好きな、TVアニメのテーマソングを歌ったときに、自然な声で歌っていたのを聞いたことがある。それは、集団でなくひとりだから怒鳴らなかつたのだろうか。大人に歌わされたのではなく、自発的に歌ったからなのだろうか。それとも、その曲の音域が声に合っていて歌い易かったからだろうか。(その歌の音域をすぐに確認してみるとオリジナルで歌われていた。)

その観察をきっかけとしてTVアニメソングについて調査を試みることにした。本論では、その中でも特にアニメ主題歌の音域を調べ、子どもの声域と比較することで、TVアニメ主題歌の歌い易さと怒鳴り声の関係を探りたい。

#### 2. なぜ怒鳴って歌うのか

保育現場から聞こえてくる子どもたちの歌声は、「怒鳴り声」や「張り上げ声」が多い。歌声だけでなく、保育室の環境そのものが大変騒がしいことも多く、その騒音の中で保育者や教師が、さらに大きな音でピアノを弾きながら子どもたちに歌わせている状況を目にすることも多い。

怒鳴り声が多いことに気づいて以来、筆者はその原因を探って研究を続けてきた。子どもたちが怒鳴り声で歌う理由としては、次のことが考えられる。

- ① 保育者が「元気に歌いましょう」「大きな声で歌いましょう」という言葉かけをするために、それに精一杯答えようとして、無理に大声を出して怒鳴るため。
- ② 子どもの声域に比べ、「子どものうた」の音域が広すぎたり、高すぎたりするため無理にその音程を

出そうとして、力をいれて歌うため。

- ③ 子どもたちに歌わせるときのピアノ伴奏の音が大きすぎるので、それに負けないように大声を出すため。
- ④ 集団で歌うときに、友達より目立とうとして大声を出すため。
- ⑤ 騒がしい環境(隣の保育室からの騒音など)の中で歌うため。
- ⑥ 親や保育者が「怒鳴り声」に関して無関心であるため。
- ⑦ 保育者の中に「きれいな声、響きのある自然な声」に対する具体的なイメージがないため。
- ⑧ その他

拙論『子どもの歌唱について』<sup>(1)</sup>では、怒鳴り声の原因が保育者の「おおきな声で」「元気に」という言葉かけにあるという仮説をたてて検討した。アンケート調査の結果よりその仮説が実証され、前頁①は怒鳴って歌

う理由の一つであることが確かめられた。

同『子どもの声域と歌唱教材の音域』<sup>(2)</sup>では、子どもの声域と幼稚園や保育所で現在よく歌われている歌の音域がずれていることが、怒鳴り声を生む一要因ではないかという仮説のもとに調査を行なった。子どもの声域調査の報告は多数あるが、それぞれ調査方法が違いため比較対象とはなりにくく、本研究のための声域調査を改めて実施した。その結果、子どもの声域よりも3~4度音域の高い曲を普段歌っていることがわかり、この仮説前頁②も実証できた。

本論では、“TVアニメ主題歌の音域が子どもの声域に合っているため歌い易い”という仮説を検証し、さらに②の理由を裏付けることを目的とする。また、④の集団で歌うときと、自発的に一人で歌うときの違いにも言及していきたい。

	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
8:00 AM :30	GS美神 (テレ朝)						
9:00	蒼き伝説シュート (フジ)						
5:00 PM :30		アンパンマン (日テレ)	新・ド根性カエル 罇 (日テレ)	おちゃめなふたご 罇 (日テレ)		機動戦士Vガンダム (日テレ)	勇者警察Jデッカー (テレ朝)
		キャッツアイ罇 (日テレ)	キャッツアイ罇 (日テレ)	キャッツアイ罇 (日テレ)	キャッツアイ罇 (日テレ)	ルパン3世罇 (日テレ)	
		キテレツ大百科 罇 (フジ)	キテレツ大百科 罇 (フジ)	キテレツ大百科 罇 (フジ)	キテレツ大百科 罇 (フジ)	キャッツアイ罇 (日テレ)	忍たま乱太郎 (NHK)
6:00	ツヨシしっかりしなさい (フジ)	しましまとらのしまじろう (テレ東)	アイアンリーガー (テレ東)	ゴウザウラー (テレ東)		赤ずきんチャチャ (テレ東)	幽々白書 (フジ)
:30	サザエさん (フジ)		大好き!ハローキティ (フジ)	ミュートントートルズ (テレ東)	ウイロークtown (テレ朝)	剣勇伝説ヤイバ (テレ東)	
7:00	キテレツ大百科 (フジ)	嵐を呼ぶ園児クレヨンしんちゃん (テレ朝)	サザエさん罇 (フジ)	ドラゴンボールZ (フジ)	クッキングパパ ジャングルの大 者ターちゃん	ドラエもん (テレ朝)	まんが日本昔ばなし (TBS)
:30	七つの海のティコ (フジ)	コボちゃん (日テレ)			平成イヌ物語バウ (テレ朝)		セーラームーンR (テレ朝)
							スラムダンク (テレ朝)

表1 1週間のアニメ番組

3. アニメ主題歌の音域

① 調査方法

a TVアニメーション番組の調査

東京家政大学付属みどりが丘幼稚園の子どもたちに対して「どんなTVアニメをいつも見ているか」という聞き取り調査を行なった。同様に「どんなアニメの歌を知っているか」という質問も行なった。

当時(1993年12月)の女兒に大変人気のあったのは「美少女戦士セーラームーンR」のオープニングテーマ曲『ムーンライト伝説』であった。男児は「クレヨンしんちゃん」の『主題歌(同名)』や『オラはにんきもの』を第一に挙げる子どもが多かった。

また、アニメ番組とは何かがよく理解できないで他の幼児番組を挙げる子どもも多かった。

子どもたちからの聞き取りで記録した曲はすべて調査しようと試みたが、番組改編のため放送を終了している番組であったり、同じ番組の中でも主題歌や挿入歌が別の曲に入れ代わっているものもあって調査できない曲もあった。

こういったTVアニメ番組の周期は半年が単位になっており、挿入歌などは、流行らなければ3カ月単位で入れ代わっていた。逆に人気の定着している番組は、何回も再放送されている。例えば現在でも再放送の続いている『サザエさん』(放送開始は昭和44年10月)の人気は視聴率25%<sup>(3)</sup>という数字からも理解できる。

1994年2月20日から2月26日までに東京地方で放送されたアニメ番組は〈表1〉の通りである。

b アニメ主題歌の音域(最高音・最低音)の調査方法

注:アニメ主題歌にはオープニングテーマ曲、エンディングテーマ曲、挿入歌を含む

1993年12月から1994年2月に放送された番組の中から27曲を選びだした。それに、放送を終了してはいるが、子どもたちのよく歌う3曲を加えて30曲とした。

この30曲の選曲にあたっては上記aの聞き取り調査に加え、横浜市緑区O幼稚園の5歳児30名に対する聞き取り調査で出てきた曲も考慮した。

子ども向け番組の数は非常に多く、『おかあさんといっしょ』のような幼児番組、教育番組、『ひょっこりひょうたん島』『平家物語』のような人形劇、『ダイ

レンジャー』のような実写ものなど多岐にわたるが、あまりにも数が多くなってしまったため、本論ではそれらを省きアニメーションに限って調査、考察することにした。

選び出した曲を順次TVからVTRに録画していく。そしてメロディーを五線紙に書き取り、最高音と最低音を調べ記録する。次に、既に放送を終了している番組の曲については、CDや「TVアニメ曲集」<sup>(4)</sup>を参考にしながらTV放送時と同じ調であることを確認して同様に記録した。市販されている多くのピアノ用・エレクトーン用のアニメ曲集は弾き易いように移調してあり、音域の調査には使用できないので放送時の調であることの確認は注意深く行なった。

② 結果と考察

アニメ主題歌の中には音域のとても広いもの、全体

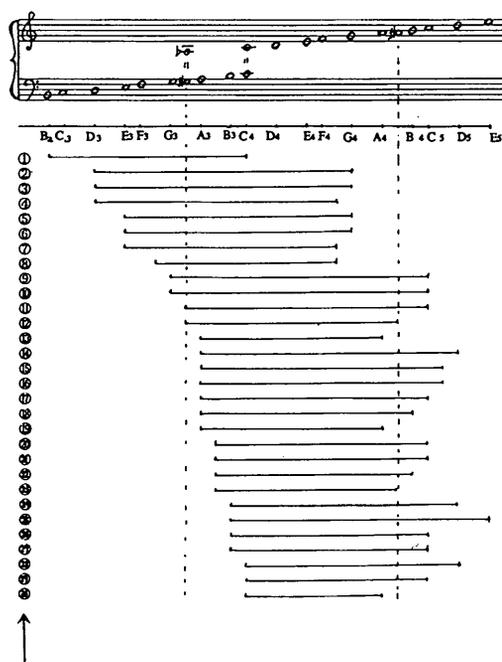


表2の曲目番号

図1 アニメ主題歌30曲の音域

的に低いもの、また男性の声で歌われているため子どもが同じ音域では歌えないもの(必然的に子どもは1オクターブ上で歌うようになる。)もあった。

そのためアニメの音域はこうであると一言ではまと

められないが、最低音の平均は「A<sub>3</sub>♭<sub>3</sub>=変イ音」最高音の平均は「A<sub>4</sub>♯<sub>4</sub>=一上嬰イ音」となる。また音域の平均は「長9度=1オクターブと長2度」であった。

子どもが自発的に歌っている時の歌声であるのでもちろんピアノ伴奏などない。ということは、子どもがアニメの歌を口ずさむ時にそれぞれ好きな調に移調して歌うことも可能である。また、それぞれ好きな音域で歌うのであれば本研究は意味をなさない。

筆者が、子どもの自由遊びの時間に、聞き取った歌声はみんなTVと同じ高さであった。それは偶然に最も歌い易い音域と一致したか、毎日のように耳にし、歌っているため音の高さまで覚えてしまったためと考えられる。

\*音名は米国式を使用

#### 4. 子どもの声域

TVアニメの主題歌の音域と比較するための子どもの声域を、筆者の先行研究<sup>(2)</sup>による調査結果のデータから求める。調査は年令別に行なったが、本論では3歳児から5歳児までの結果をまとめて扱う。以下に調査の概要を簡単に記す。

##### ① 子どもの声域調査

- ・調査期間：1993年5月10日～6月12日
- ・対象：東京家政大学付属みどりが丘幼稚園園児（昭和62年4月3日～平成2年1月12日生まれの78名）

年長あお組……33名  
 年中あか組……32名  
 年少もも組……13名

- ・調査曲：『ちゅうりっぷ』  
 作詞 近藤美耶子  
 作曲 井上 武士

選曲にあたっては、音域が狭く、順次進行が多く、歌い馴染んでいる歌であることを考慮した。

- ・調査方法：子どもは自由遊びの時間にひとりずつピアノの前にきて、調査者の弾くピアノに合わせて歌う。

- (1) まず、『ちゅうりっぷ』をハ長調（開始音C<sub>4</sub>）で歌う。
- (2) 次に、順次半音ずつ上行させた調で歌い、上限

- ① 疾風アイアンリーガー2 [H<sub>2</sub>~C<sub>4</sub>]
- ② 疾風アイアンリーガー1 [D<sub>3</sub>~G<sub>4</sub>]
- ③ 蒼き伝説 [D<sub>3</sub>~G<sub>4</sub>]
- ④ 赤ずきんチャチャ [D<sub>3</sub>~F<sub>4</sub>♯]
- ⑤ クッキングパパ [E<sub>3</sub>~G<sub>4</sub>]
- ⑥ 勇気があれば(ヤイバ) [E<sub>3</sub>~G<sub>4</sub>]
- ⑦ 神智学なき戦い(剣勇伝説ヤイバ) [E<sub>3</sub>~F<sub>4</sub>♯]
- ⑧ ツヨシしっかりしなさい [F<sub>3</sub>♯~F<sub>4</sub>♯]
- ⑨ ムーンライト伝説(セーラームーン) [G<sub>3</sub>~C<sub>4</sub>]
- ⑩ クレヨンしんちゃん [G<sub>3</sub>~C<sub>4</sub>]
- ⑪ アンパンマンのマーチ [G<sub>3</sub>♯~C<sub>4</sub>]
- ⑫ オラはにんきもの(クレヨンしんちゃん) [G<sub>3</sub>♯~A<sub>4</sub>♯]
- ⑬ スラムダンク [A<sub>3</sub>~A<sub>4</sub>]
- ⑭ サザエさん [A<sub>3</sub>~D<sub>4</sub>]
- ⑮ 大キライ(平成イヌ物語バウ) [A<sub>3</sub>~C<sub>4</sub>♯]
- ⑯ ドラえもんうた [A<sub>3</sub>~C<sub>4</sub>♯]
- ⑰ ゆめいっぱい(ちびまるこちゃん) [A<sub>3</sub>~C<sub>4</sub>]
- ⑱ ひみつのアッコちゃん [A<sub>3</sub>~B<sub>4</sub>]
- ⑲ 微笑みの爆弾(幽々白書) [A<sub>3</sub>~A<sub>4</sub>]
- ⑳ ドラゴンボールZ [A<sub>3</sub>♯~C<sub>4</sub>]
- ㉑ 大好きハローキティー [B<sub>3</sub>♭~C<sub>4</sub>]
- ㉒ 乙女のポリシー(セーラームーン) [A<sub>3</sub>♯~B<sub>4</sub>]
- ㉓ 七つの海のティコ [B<sub>3</sub>♭~B<sub>4</sub>]
- ㉔ 勇者警察Jデッカー [B<sub>3</sub>~D<sub>4</sub>]
- ㉕ ママレードボーイ [B<sub>3</sub>~E<sub>4</sub>]
- ㉖ ジャングルの大者ターちゃん [B<sub>3</sub>~C<sub>4</sub>]
- ㉗ キテレッツ大百科 [B<sub>3</sub>~C<sub>4</sub>]
- ㉘ ムカムカバラダイス [C<sub>4</sub>~D<sub>4</sub>]
- ㉙ おどるポンポコリン [C<sub>4</sub>~C<sub>4</sub>]
- ㉚ コボちゃん [C<sub>4</sub>~A<sub>4</sub>]

表2 アニメ主題歌30曲の曲名と音域

と思われる音を調査者は記録する。

- (3) 下限の音を調べるために、中央の音域に戻ってロ長調（開始音B<sub>3</sub>）から順次下の調で歌う。
- (4) 下限と思われる音を調査者は記録する。

(5) 同時に子どもの声は子どもの胸に付けたピンマイクで録音しておく。

(6) 後日カセットテープを再生し、ノートに記録した音程と照合し、その子どもの声域を確定する。

・使用機器：ヤマハアップライトピアノC3

ピッチ：A<sub>4</sub>=441Hz

ソニーステレオカセットコーダーWMB3

・調査結果

図2から、60%の子ども=46名以上の子どもの歌える最低音はA<sub>3</sub>であることがわかる。同様に最高音はC<sub>5</sub>である。

音域の平均は3歳児が1 oct.と短3度(15半音) 4歳児が、約1 oct.と長3度(16半音)、5歳児が1 oct.と増4度(18半音)であった。つまり、4歳児は3歳児より、半音音域が広くっておりさらに、5歳児は4歳児より、全音広がっている。全体としては、1 oct.と完全4度(17半音)が、本調査における幼児の声域=幅である。

### 5. 子どもとアニメ主題歌

#### ① 音域の比較

図1の音域と図2、図3の子どもの声域を比較すると、それらはA<sub>3</sub>~A<sub>4</sub>の間にある一致している。幼稚園や保育所でよく歌われている「子どもの歌」が子どもの声域より3~4度も高かったという研究結果<sup>(2)</sup>と比べて考えるとTVアニメの主題歌の方が音域が低く歌いやすいといえる。

しかし、これは便宜的に最低音の平均と最高音の平均を出しただけであるので、実際には大人の男性が歌うC<sub>3</sub>~G<sub>3</sub>などは1オクターブ高くしないと一緒に歌うことはできない。

また、調査時には最低音イ音(A<sub>3</sub>)までしか出なかった子どもが、さらに長2度低いト音(G<sub>3</sub>)をアニメの場合は楽々と歌ってしまうこともある。これは『美少女戦士セーラームーンR』のオープニングテーマ『ムーンライト伝説』の歌い出しのところを歌った子どもの例だが、このようなことはよく見受けられる。この曲はト音ではじまる2小節のフレーズが19回も繰り返されるのでよく覚えているようである。(図3)

つまり、主人公になりきって歌うと、イメージが広がり、音域が広がっても声が出るということなのだろう。

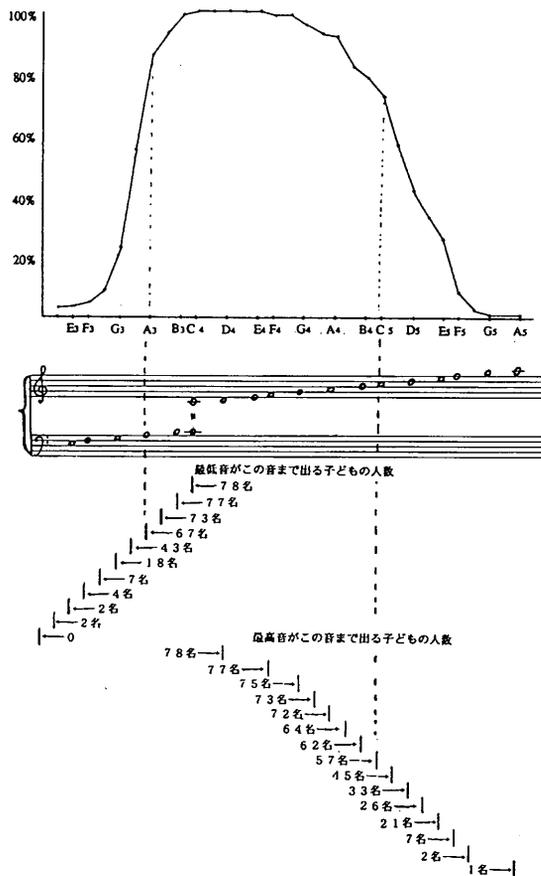


図2 子どもの声域



図3 『ムーンライト伝説』

子どもが怒鳴らずにアニメの主題歌を歌う理由は、音域が子どもの声域と合っているということだけではないようである。

テレビアニメーションが幼児の想像性に及ぼす影響

を研究している佐渡真紀子らは「アニメも条件の提示の仕方を変えれば、読み聞かせと同様に量も質も高いイメージを想起することが可能である」と結論づけている。<sup>(6)</sup> そのことは、アニメの主題歌も同様に提示の仕方しだいで量も質も高いイメージを想起できるということにつながるのだろう。子どもが、「子どもの歌」を歌う時も、イメージを豊かに広げつつ歌うことは非常に重要なことである。

## ② 子どもとTVアニメの結びつき

現代社会においてテレビは、子どもの日常生活に深く入り込んでいる。主体的にテレビを見るようになるよりもっと年令の低い乳児の頃からテレビの刺激を受けて子どもは育っている。もちろん音楽的環境だけを取り上げて考えても、非常に多くの種類の音楽が子どもの耳に届いている。

「幼児の生活と情報とのかかわり」<sup>(6)</sup> の調査によれば全国の公立幼稚園の5歳児388名のうち1日にテレビを見る時間は2時間くらいという回答が50.1%が一番多い。次いで3時間位、1時間位の順になっている。

毎日の視聴時間の中には、一緒に口ずさみたくくなるような歌の時間が必ずあるだろう。それは、子ども向け番組のテーマソングやCMソングなど、アニメに限らず多種多様である。それらの中には、子どものことを考え教育的配慮のもとにつくられている曲もあるだろうが、そうでないものも多い。

TVアニメの場合テレビ局が自局で番組を制作していることは少なく、子会社の制作した番組を買い取って放映していることが多い。また、主題歌などは子会社間の取引に使われることもあり、教育的な配慮が入り込む隙間はなさそうである。

もっともTVアニメは大人の視聴者のほうが圧倒的に多い番組もあり、大人のアニメファンのための雑誌がよく売れている。<sup>(7)</sup>

## 6. おわりに

子どもたちがアニメ主題歌を怒鳴って歌わないのは集団で歌わないことに加えて、子どもの声の高さに合った曲であることが、もう一つの理由であることが確認できた。それは、子どもにとって歌の音域は歌いやすい音域のものであることが大切だという非常に基本的なことである。

しかし、流行歌と同じような手法で作られているこれ

らの曲は、一過性の刺激的なものが多い。詩の内容も意味不明のものが多かったり、子ども向きとは言い難い内容であったり、日本語の詩として美しいものは残念ながら少ない。

だが、子どもたちは毎日のようにアニメを見て、その主題歌をテレビと一緒に歌っている。TVの影響力は非常に大きい。制作側に対しては、売れるか売れないか、という価値基準だけでない制作姿勢を、子どもたちの親と共に、また視聴者として求めていきたい。そして、保育においては、はじめから全てのアニメやその主題歌を否定するのではなく、いい歌は積極的に取り入れるべきだと考える。

本研究結果をふまえて、保育で生かせる子どもの歌を選び、自然に歌を口ずさみたくなるような環境を子どもたちのまわりに作る必要を感じる。小木曾敏子が述べているとおり、「子どもが音楽を感じることでできる曲は、共に感じ合える保育者の働きかけを外部からの刺激として受け、子どもの内部からの精神的刺激と相まって、想像的表現の喜びに到達させることができる。」<sup>(8)</sup> のである。そのためにも本当にいい歌を、きれいな声で心豊かに歌える歌を選んで、一曲ずつ手渡さなければいけない。

筆者はこれまで子どもが怒鳴って歌うことについて保育者の言葉かけの問題や教材となる曲の問題について外側からの研究を続けてきた。今後は、歌う子どもの内側からの視点で考えていきたい。どのような気持ちの時にどのような歌を歌いたくなるのか、そしてその声はどのようなものかを探っていきたい。

## 注

- (1) 細田淳子「子どもの歌唱について—どなり声に関する一考察」音楽教育学第23-2号P. 14~23 日本音楽教育学会1993
- (2) 細田淳子「子どもの声域と歌唱教材」初等音楽教育2号P. 36~45 日本初等音楽教育学会1994
- (3) アニメ視聴率 関西以外の5地区で「サザエさん」が第一位(関東地区25.2%) 1994年4月4日~10日 ビデオリサーチ調べ
- (4) 「アニメ・ヒット全集」①, ② ドレミ楽譜出版 1991
- (5) 佐渡真紀子, 岩男寿美子「テレビアニメーションが幼児の想像性に及ぼす影響—悪影響の通減に向けての

- 実証的提案—」新聞研究所年報No. 37pp. 37~54  
慶応義塾大学新聞研究所1991
- (6) 「『幼児の生活と情報とのかかわり』について」幼稚園時報 第21巻第11号pp. 18~27 全国国公立幼稚園園長会編1994
- (7) アニメージュ(月刊誌)徳間書店, 月刊ニュータイプ 角川書店 他
- (8) 小木曾敏子「幼児のうたう活動についての—考察—  
どなうたうことを中心に—」長野県短期大学紀要  
第41号pp. 57~66 1986

### Summary

#### “Children’s Vocal Range and TV Animation Songs”

I have been continuing to research children’s singing education. In my recent paper, I pointed out one of the problems, that is, children’s shouting voices.

I determined many reasons for their shouting voices. Some reasons for shout singing are as follows:

1. Children are asked to sing loudly by teachers, because of the teachers’ concept that a loud voice

is proof of children’s liveliness, which is not correct.

2. Accompanying songs on the piano, whose sound is overpowering to children.
3. Many children’s songs are not suited to children’s vocal range.

Children love to watch TV animation programmes and to sing the theme songs. One day, a child was singing the theme songs of TV animation programmes, and he did not shout. I wondered why. Could it be that a child does not shout when he sings alone, or when he sings spontaneously, or are TV songs suited to children’s vocal range?

So, I wanted to research whether the theme songs of TV animation programmes are suited to children’s vocal range. I have found that the theme songs’ ranges were suited to children’s vocal range. My opinion is not to encourage children to sing TV songs, but, rather it is that teachers should choose children’s songs with the proper range to suit children’s natural vocal range.